

西諸県地域の普及活動

令和7年2月
西諸県農林振興局
(西諸県農業改良普及センター)

I 管内農業・農村の主な動き

1) 2月期子牛郡品評会が開催

14日に、小林地域家畜市場において、西諸県郡市畜連主催による令和7年2月期子牛郡品評会が開催されました。

2月18日から20日に開催される2月期子牛セリ市に出荷される雌子牛のうち、市町子牛品評会を経た36頭が出品され、審査の結果、優等賞に9頭、壺等賞に14頭、式等賞に13頭が選ばれました。

なお、優等賞首席は小林市の永久井幹男さんの「けい176」号(二刀流ー忠国桜ー勝平正)、2席は小林市の山田真司さん出品の「あきゆり」号(桃百合ー秀正実ー勝平正)、3席は小林市の橋満裕治さん出品の「すずひめ762」号(鈴之助ー美穂国ー勝平正)が受賞されました。受賞牛は、発育良好で体積豊か、側方からの張りが秀でていたとの講評でした。



【けい176号】

II 主な普及指導活動等の取組

1 プロジェクト(総合、専門)に関する普及活動 (持続可能な農業生産の実現へ向けたアグリプレーヤーの確保・育成)

1) 就農相談会を実施

25日に、えびの市いちご団地の研修生1名に対して就農相談を行いました。会では、補助事業等の支援策の活用を検討し、就農計画の認定に向けたスケジュール等の確認を行いました。

26日には、高原町で花卉生産での就農希望者1名対し、就農へ向けた収支計画についての相談に対応しました。

今後も、就農計画の作成をはじめとする就農にむけて必要となる支援を継続していきます。
※就農相談対応 2者2回

(内訳 えびの市：施設野菜1者、高原町：花卉1者)

2) 県外就農相談会に参加

15日、東京都で開催された「マイナビ農林水産FEST」にきりしま農業推進機構と参加し、都内近郊在住者6名の方の就農相談の対応を行いました。

相談者の就農への準備段階や就農希望地はそれぞれでしたが、宮崎へ移住して就農することにも関心を持たれている方もいました。

今回の相談会の内容を踏まえ、現在、関係機関で進めている研修受入体制の整備に向けた協議を継続していきます。



【きりしま農業推進機構による相談対応】

3) 新規就農者育成総合対策経営開始資金（旧：農業次世代人材投資資金）活用者の就農状況等の確認

12日に小林市で、14日及び18日にえびの市で経営開始資金等を受給する新規就農者に対して、関係機関とともに就農状況の確認を行いました。

確認は、面談による認定新規就農者の認定時に作成した就農計画の達成状況と現地での営農状況確認を行いました。

今回の確認状況を踏まえながら、新規就農者に必要等の支援を行っていく予定です。



【関係機関による圃場確認】

（未来に繋ぐ“持続的な次世代型水田農業”の実現）

1) 西諸県地区普通作技術員会で品種試験結果を協議

4日に、普及センターにおいて、第2回西諸県地区作技術員会を行いました。今回は管内の普通期水稻の実績や主食用米の有望系統「南海189号」及び「南海192号」の栽培試験結果について協議し、来年度も展示ほを設置することを決定しました。

今後は、日本穀物検定協会の「南海189号」サンプル評価の結果を元に、地域内の有望系統の普及方針等について協議する予定です。

2) ミシマサイコ（薬草）播種の現地講習会を開催

10日に、小林市野尻において、ミシマサイコの播種に関する現地講習会を開催し、生産者9名、関係者7名（JA、普及センター、薬草センター）が参加しました。

講習会では、生産者ほ場において、播種機の調整や播種の実演等が行われました。当日は極寒の中での開催でしたが、生産者からは栽培に関する質問や意見が活発に出ていました。

今後も、産地の拡大に向けた取組を関係機関と連携して行って参ります。



【播種の実演】

（にしろの畑地を生かした収益性の高い加工・業務用野菜産地の確立）

1) ほうれんそう品種比較試験の収量調査を実施

1～3日に、えびの市及び高原町内において、冬春作・加工用ほうれんそうの品種比較の収量調査を実施しました。

加工用ほうれんそうでは、べと病、黄化症、葉先枯れ等の被害が毎年発生しており、不安定な生産状況であることから、各メーカーから発表される新品種の試作を行うことにより、西諸県地区の環境にあう品種の選抜を行うことを目的に比較試験を実施しています。

安定した生産体制の構築に資するため、今後も関係機関・団体と連携し、定期的に試験を実施して参ります。



【収量試験の実施】

2) JA こばやし里芋生産部会の栽培講習会を実施

12～13日に、JA こばやし里芋生産部会の栽培講習会を実施しました。西諸県地区の里芋は、夏秋期の主幹品目として隆盛を誇っていましたが、疫病の発生により面積が激減した状況にありました。対策マニュアルに沿った被害の軽減策を普及させており、そのことをきっかけに面積が増加に転じています。講習会では、気象から栽培に関する重要ポイントを説明しており、今作の安定生産につなげる対策を関係機関と連携して行っています。



【講習会の様子】

3) JA こばやし甘藷部会総会・宮日賞祝賀会の開催

18日に、小林市内において、令和6年度 JA こばやし甘藷部会総会及び宮崎日日新聞農業技術賞の受賞祝賀会が開催され、約80名の生産者や関係者が出席しました。

総会では、事業実績・計画等の議事及び優良生産者の表彰、普及センターからはかんしょ栽培に関する情報提供が行われ、総会終了後に祝賀会が開催されました。

今後も、更なる産地拡大に向けた取組みを関係機関と連携して行っています。



【部会長あいさつ】

(スマート生産基盤の確立による収益性の高い果菜類産地の育成)

1) 促成きゅうり、いちご個別巡回の実施

毎月、管内の新規就農者の技術支援や面談を実施しています。

きゅうりでは、小林市内の新規就農者に対して環境データの活用について助言したことで、それを参考に管理改善を行うことができました。

また、いちごでは、新規就農者の経営状況の確認を行うことで作業スケジュールを改善し、作業に遅れが生じないよう支援を行いました。

今後も、引き続き関係機関と連携し、支援を充実させていきます。

(魅力ある西諸果樹産地の維持・発展)

1) JA こばやしマンゴー部会運営委員会で研修の受入体制を協議

27日に、標記運営委員会に参加しました。会議では、今後の部会行事や選果手数料の見直し等について検討しました。また、普及センターからは研修受入体制について、今後のスケジュールや研修カリキュラム案を説明したところ、概ね了承を得て、考えられるトラブル対策や選果場の研修での活用等の意見もいただきました。今年度中に認定研修機関の認定を受け、来年度冬から新規就農希望者を募集する予定です。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

2) JA こばやし梨ぶどう生産部会定期総会

28日に、標記総会に参加しました。役員改選では部会長、副部会長、運営委員が新しいメンバーとなり、それぞれからあいさつがありました。普及センターからは新しい栽培暦や、着色促進剤の試験結果、日焼け対策等の資料を配付しました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【JA こばやし梨ぶどう部会総会】

(西諸県地域の特色を活かした花き産地振興)

1) キクの農家害虫対策を支援

6日及び13日に、小林市管内のキク農家のほ場にて害虫類の対策としてハウス内と周辺の除草の効果について調査を行いました。

害虫の少ない今のうちに、ハウス内と周辺の除草をしっかり行うことで、アブラムシが減少する効果がある結果となりました。

今回の結果について、部会などで共有を行い、除草の促進を図って支援に引き続き力をいれて取り組んでいきます。



【除草剤を散布し調査準備をする普及員】

2) 高原町花卉部会の定例会が開催

20日に、高原町管内においてほ場巡回及び定例会が開催され、生産者4名、関係機関3名が参加しました。

JAから情勢報告が行われ、3月彼岸出荷の状況について説明されました。普及センターからは、かん水と日射量について説明を行いました。

引き続き関係機関と協力し、部会の活動を中心に支援していきます。



【部会長からの言葉を聞く農家と関係機関】

3) JAこばやし花卉部会定例巡回及び定例会が開催

26日に、JAこばやし花卉部会員3戸の定期巡回が行われ、生産者4名と関係機関4名が出席しました。3月彼岸出荷を中心に巡回し、生育を確認しました。

定例会では、JA販売課から情勢報告、普及センターからは、残さ分解とかん水、日射量について説明を行いました。2月は10月と同等の日射量があるため、気温が低いとかん水を控える傾向がありますが、水分不足や高湿度により下葉のしおれの発生もみられます。生産者からは適度なかん水を行うように心がけ、特に頭上かん水の場合はかん水実施時間にも気をつけるような意識になったと意見をいただきました。



【部会長からの言葉を聞く農家と関係機関】

4) JA みやざきこばやしラナンキュラス研究会の球根生産協議及び祝賀会の開催

18日に、JA みやざきこばやしラナンキュラス研究会にて、生産者7戸、関係機関6名が参加し、産地としての品種の検討会及び共進会における農林水産大臣賞の個人経営の受賞の祝賀会が開催されました。

管内のラナンキュラスの特色の一つとして、Pon-Pon シリーズの栽培があげられますが、優良球根の生産や高温に対応した管理などが課題であり、今後の産地としての方向性について検討したところです。農家同士の意見交換が実施されましたが、方向性は明確にはなりませんでした。

産地としては、気候変動や経費の高騰をうけ厳しい状況ではありますが、ウイルス株や病害発生株の抜取り処分の徹底など農家自身の優良な球根生産を進めていく必要があります。また、関係機関とともに、より一層良い球根の供給体制について整える必要があります。

引き続き、種苗会社や関係機関等と連携しながら、ラナンキュラスの優良な球根の生産を進めていきます。



【会長からの言葉を聞く農家と関係機関】

5) 西諸県地区キイチゴ「ベビーハンズ」の栽培講習会を開催

20日に、JA えびの市にて、キイチゴ「ベビーハンズ」の栽培講習会を開催し、生産者14名、関係機関5名が出席しました。

室内講習会では、キイチゴにおける経営事例や1年間の管理、病害虫に重点を置き説明しました。特に、病害虫については、べと病とコガネムシ類を中心に説明し、防除のタイミングや健全な植物の育て方などについて生産者に考えていただきました。

現地視察では、JA えびの市管内のキイチゴほ場において意見交換が活発に実施され、新規定植者を含めた交流が行われました。

これから芽吹きがはじまりますが、引き続き関係機関と協力し、霜害対策と防除を中心に支援していきます。



【課長の講義を熱心に聞く農家と関係機関】

(20年後も生き残る西諸茶産地の育成)

1) 令和6年度 茶関係組織の総会が開催

18日に西諸茶業青年会、20日に西諸県地区茶業振興協議会の総会が小林市内で開催され、生産者や関係機関担当者が出席しました。

各総会では、令和6年度事業実績及び収支決算や来年度以降の役員体制、連絡体制等が協議され、全ての議案が承認されました。

今後も生産者と関係機関が協力し、高品質茶生産に向けた支援を行います。

2 プロジェクト(総合、専門) 以外の普及活動

1) 西諸農業改良普及事業推進協議会幹事会及び 西諸県地区農業経営指導士会普及事業実績検討会を開催

19日に、普及事業推進協議会幹事と農業経営指導士合同の令和6年度普及事業実績及び令和7年度計画案の検討会を開催しました。

この検討会では、普及指導活動計画の総合プロジェクト3課題及び専門プロジェクト5課題の実績を中心に、令和7年度の活動実績と令和7年度活動計画について説明を行いました。出席者からは、食用米新品種についての要望や耕畜連携の稲わら提供、ぶどう・梨の産地維持について助言をいただきました。【開会時に幹事長挨拶を行う中別府課長】

今後は、いただいた意見を参考に令和7年度の普及指導活動計画に反映していく予定です。



2) 高原町集落営農法人連携検討会の開催

17日に、きりしま農業推進機構主催で、高原町の4集落営農法人の役員、オペレーターが集まり、意見交換が行われました。一つは近年の温暖化の影響で等級の上がらない「ヒノヒカリ」と暑さに強い「おてんとそだち」の2品種の食味比較を行い、もう一つは除草剤による本田雑草の体系処理及び畦畔管理の実績について、意見交換を行いました。各法人の課題等が共有化され、集落営農組織間のつながりを作ることができました。

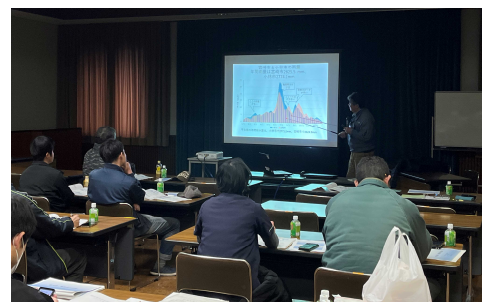


【集落営農4法人の代表者による検討会】

3) JA 小林青年部野尻支所研修会

12日に、小林市役所野尻庁舎研修室にて、JA 小林青年部野尻支所主催の研修会が行われ、普及センターからは、良い粗飼料を作るための土作り等についての説明を行いました。参加者からは、具体的な施肥についての質疑がされるなど、土作りの意識の高まりを感じる研修会となりました。

今後も粗飼料の品質向上に向けて、研修会を実施していく予定です。



【講習会の様子】

4) 須木特別栽培講習会の実施

27日に、須木ふるさとセンター研修室にて、須木特別栽培米講習会を開催し、管内の生産者7名が参加しました。

講習会は、令和7年度の特別栽培米暦の詳細や特別栽培米の病虫害防除について説明しました。生産者からは来年度の米価推移や鳥獣害対策、漏生イネ対策について活発な質疑が出ました。

今後も関係機関と連携し、特別栽培米生産者に対して重点的な支援を行っていく予定です。



【講習会の様子】

5) 県営振協促成きゅうり展示ほ現地検討会

18日に、北諸県管内のきゅうりほ場で県営振協展示ほ現地検討会が開催され、県内の普及員やJA指導員が参加しました。この展示ほでは、定植時の省力化かつ高温対策にもなる「ひなたエアポット」や「アースストレート苗」と呼ばれる生分解性のポットを使用したきゅうりの生育状況を確認することができました。

検討会では各地域の指導員や生産者と意見交換を行うことができ、大変勉強になりました。学んだことは生産者にしっかり共有していきたいと思います。

6) えびの市ピーマン部会全体会

10日に、JA えびの市本所にて、えびの市ピーマン部会全体会が開催されました。普及センターからは、営振協野菜部会技術員会で実施した大分県のピーマン産地視察の結果と、今年度管内で実施したピーマン台木を比較した営振協展示ほの結果を情報提供しました。

夏秋品目の栽培がいよいよ始まりますので、関係機関と連携して生産者の支援を行っていきます。

7) 令和 6 年度西諸県地区野菜技術員会（第 5 回）

17日に、普及センターにて、西諸県地区野菜技術員会を開催しました。会議では、品目毎の生育概況や県の事業の紹介、展示ほの検討などを行いました。また、夏秋品目の高温対策についても技術員間で意見交換を行いました。

引き続き技術員間で連携し、野菜の振興に向けた活動を行っていきます。

8) 令和 7 年度産こばやしゴーヤー生産部会栽培講習会

27日に、三ヶ野山出張所にて、こばやしゴーヤー生産部会栽培講習会が開催されました。普及センターからは、夏場の高温対策について重点的に説明を行いました。

昨年は高温により作物の生育不良が多く見られたため、今年は高温対策に関する栽培指導を重点的に実施していきます。



【講習会冒頭の部会長挨拶】

9) 西諸県地区果樹技術員会第 7 回定例会

18日に、西諸県地区果樹技術員会を開催しました。会議では、各品目の生育概況報告や、事業活用の検討などを行いました。また、先月、大分県視察で学んだ手法を真似て、土地探し方法の検討を地図システムを用いて実演したり、耕作放棄地の現地を視察したりしました。

今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。



【土地探し方法の検討】



【耕作放棄地の現地視察】

10) 果樹での新規就農者確保に関する本課との意見交換会

22日に、標記意見交換会が開催され、関係機関約25名が参加しました。意見交換会では、リリーフ園の維持管理を目的とした令和7年度事業活用の検討などを行いました。果樹園は、出し手と受け手のタイミングが合わない場合の承継は難しいですが、事業の活用を検討し、生産者・新規就農者の負担ができるだけ少なくなるような仕組みを目指します。今後も引き続き関係機関と連携し、地域の課題に取り組んでいきます。

11) 「花の祭典2025」が開催され西諸県管内の花きが出展

1～2日に、イオンモール宮崎にて県産花き展示会2025が開催されました。西諸県地域からはキクやラナンキュラス、デルフィニウムの10点が出典されました。

今年は、高温や曇雨天など気候変動の影響があり、花の出展数が少ない状況ではありましたが、出展された花については華やかで来客者からは好評でした。

県内でどのような花が生産されているかPRできる機会となりますので、生産者に負担のないように関係機関とともに花の魅力を伝えていきたいです。



【管内からの出展物したラナンキュラス】

12) 苗鉢物で町を彩る推進会議による花育活動

18日、小林市内の南保育園にて、苗鉢物の生産者3名で構成される苗鉢物で町を彩る推進会議の活動の一環として鉢苗物の花育が実施されました。

管内の鉢苗物生産者3名と関係機関2名で園児22名の寄せ植え花育を支援しました。説明や寄せ植え支援などは生産者が中心に行い、園児たちも楽しそうに花を愛でていました。



【園児に寄せ植えを支援】

※この報告書では、JA みやざきこばやし地区本部を「JA こばやし地区」、
JA みやざきえびの市地区本部を「JA えびの市地区」と表記しています。
生産部会名は名称のため、地区の表示がないことがあります。